受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成19年度 環境大臣賞 受賞

受賞者名

NPO 法人　スペースふう

所在地

山梨県南巨摩郡

受賞テーマ

リユース食器利用により、ゴミを出さないイベントを提案

1.　活動継続　あり

・リユース食器レンタル事業は、スペースふうの中核事業として、現在まで一貫して継続しており、年間レンタル個数は 70 万個～100 万個を推移している。

・2006 年度から始まった「リユース食器ふうネット」の加盟団体は、現在１５団体で、毎年「ふうネットサミット」を開催し研修、交流を行っている。11 回目を迎えた今年度は、初めて一般公開し、会員外の人々にもリユース食器への理解を深めてもらう機会をもった。

・Ｊリーグヴァンフォーレ甲府エコスタジアム事業は、2004 年以来現在まで継続している。

リユース食器検品作業

第 11 回リユース食器ふうネットサミット

2.　活動の広がり　あり

・県内の環境団体に呼びかけて、「広がれ！小瀬エコスタジアムプロジェクト実行委員会」を 2010 年立ち上げた。Ｊリーグ、ヴァンフォーレ甲府のホームゲームの際、県内の環境団体、大学、企業等が持ち回りで環境啓発活動を行っている。

・生活困窮者への支援を行っている NPO と連携し、毎週甲府で行っている炊き出しの際の食器の無償貸し出しを行い、使い捨て食器ゴミの出ない炊き出しが実現している。

エコブースでの環境啓発活動

・2020 年東京オリンピック・パラリンピックを契機に持続可能なスポーツイベントを実現することを目指す「NGO/NPO」が設立されたのを機に、スペースふうもこれに加わり、ごみのないオリンピック・パラリンピックを目指す。

3.　活動の進化　あり

・使い捨て食器ゴミの削減による、CO2 の削減効果を「見える化」し、ヴァンフォーレ甲府の試合やイベント時に掲示。

・2011 年東日本大震災の教訓から、地元富士川町と災害時、避難所へのリユース食器の無償提供の災害協定を締結。

・富士川町とは、富士川町ゴミ減量化プロジェクトを立ち上げ、行政・NPO・町内事業所の連携による町民へのリユース食器レンタル料の 0 円を実現。リユース食器普及の加速化が進む。

・2013～2015 年、山梨県内のイベントをエコにするために、

CO2 削減量を見える化して掲示

電光掲示板に CO2 の削減効果を掲示

県内のイベントを調査研究。「やまなしエコイベントガイドライン」の市民案を作成、山梨県知事に提案した。(地球環境基金)

・2015～2016 年、富士川町において、町民と行政との協働によるごみ減量化の条例づくりを実現。(環境省助成事業)

・2015 年、認定 NPO の認定を取得。

(表彰記録)

・2008 年　内閣府男女参画社会づくり　女性のチャレンジ賞特別部門賞受賞

・2010 年　山梨県　県政功績賞(団体)受賞

4.　今後の計画

・2017 年度、地球環境基金の評価制度の見直しに伴い実施される、ロジックモデルを使った自立・自走支援のための調査研究の対象団体としてスペースふうが選定された。これを好機として受け、組織のさらなる基盤強化を図る年としたい。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

概　　要	
受賞者名	NPO 法人　スペースふう
所 在 地	山梨県南巨摩郡
テ ー マ	リユース食器利用により、ゴミを出さないイベントを提案

・2003 年、「ゴミを出さない祭りをつくろう！」「使い捨て食器 NO!」をキャッチコピーに、イベント時の使い捨て食器に替わり、リユース食器のレンタルシステム（借りる・使う・汚れたまま返す）を構築し、使い捨て食器の利便性をそのままに、ゴミを出さないイベントの開催を提案している。

・2004 年度からは「ヴァンフォーレ甲府」のサッカースタジアムにてリユースカップを導入。2005 年には、映画館への試験導入を試みており、今後の展開が期待されるところである。現在では、年間 45 万個以上のリユース食器がレンタルされており、使い捨て食器ゴミの減量化に貢献している。

・一方、リユース食器の利用者が広範囲になるに伴い、次のような問題が現れてきた。
①遠距離輸送をするために、CO_2 の排出等、環境負荷が増す。
②利用者にとっては、コスト高になる。
③「近くに事業所があればいい」という利用者の声が多く寄せられた。「使い捨て食器 NO!」の普及・啓発を図るためにも、近隣に事業所はあった方がいい。

・これらの課題を解決するために、全国拠点づくりが是非とも必要になり、そのための試行を行ってきたが、2006 年度より全国の市民団体などの協力を得て「リユース食器ふうネット」を設立する運びとなった。現在では全国 5 ヶ所に拠点事業所がつくられている。各拠点事業所が足元からの普及・啓発活動を行うことにより「使い捨て食器 NO!」運動は大きく進展していくものと思われる。

デポジットで食器を返す

飲み終わったら100円返金

代金に100円上乗せ